

地域特性に特化した調査研究をすすめる

平成23年度疾病構造の地域特性対策専門委員会

- 日 時 平成23年12月1日（木） 午後2時30分～午後3時10分
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 8人
岡本健対協会長、岡田委員長、能勢委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：野川室長、下田副主幹
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

議 事

1. 平成22年度事業報告について

平成22年度の「疾病構造の地域特性に関する調査研究」と「母子保健対策調査研究」を纏め、第25集を作成し、関係先に配布した。

2. 平成23年度事業中間報告について

- (1) 鳥取県における透析患者の実態調査と腎移植の推進に関する疫学調査（平成13年度より開始）

透析中の体動制限による苦痛に関する調査と看護師への慢性腎臓病に関する意識調査を行っている。

- (2) 腹腔鏡下幽門輪温存胃切除術後の胃内食物停滞防止における六君子湯の効果に関する研究（平成23年度より開始）

腹腔鏡下幽門輪温存胃切除術は早期胃癌に対する幽門機能温存手術として鳥取大学で多く実施されている。切除後の合併症の発生防止として、六君子湯の投薬による胃内食物停滞防止の効果を検討する。初年度は、腹腔鏡下幽門輪温存胃切除術と腹腔鏡下迷走神経、幽門輪温存胃切除式の違いが術後の患者QOLに及ぼす影響について比較検討を行う。

- (3) 非アルコール性脂肪性肝疾患における血清M30の有用性（平成16年度より開始）

多施設共同にてNAFLD患者に対する薬物療法の効果を、血清M30を用いて検討する。

- (4) 鳥取県におけるがん罹患・死亡の地域特性に関する疫学的研究（平成21年度より開始）
～地域がん登録データを活用した県内4市の胃がん検診の評価～

胃がん内視鏡検診の有効性を評価することを目的に、米子市・境港市・倉吉市・鳥取市の鳥取県内4市における胃がん罹患患者を対象に各種検診別の生存率の評価を行った。

- (5) 80歳以上高齢者肺がんにおける併発症を考慮した適切な術式選択と術後QOLの解析（平成23年度より開始）

鳥取大学では2000年以降の根治的肺癌手術症例602例中、80歳以上は13.8%（83例）を占めており、高齢者肺癌の増加は鳥取県の特徴でもある。術後の心身健康状態に関して、健康プロファイル型尺度であるSF-36を中心にしたアンケート解析を用いてQOL評価を行う。

母子保健調査研究は、以下のとおりである。

1. タンデムマス法による新生児マス・スクリーニング

タンデムマス法で新たに加わった代謝異常症についての対応を決定し、県内医療機関に周知した。極めて希な疾患のため、鳥取大学（小児科、脳神経小児科）が精査・加療を行うが、急変時には東部（県中）、中部（厚生）が一次対応する。

2. 乳幼児健康診査マニュアルの改訂案

2回の小委員会を開催して、改定案を作成している。年度末までに完成して来年度暫定版配布を行いたい。

3. インスリン様成長因子系を基盤として低出生体重児の病因を明らかにする。

低出生体重児（SGA児）に伴う低身長児に、インスリン様成長因子受容体遺伝子にヘテロでミスセンス異常（Gln1220Ter）を見出した。

3. 平成24年度事業計画（案）について

平成24年度事業計画案が以下のとおり提出があった。

（1）鳥取県における透析患者の実態調査と腎移植の推進に関する疫学調査

鳥取県における血液透析および腹膜透析の現状調査を引き続き行い、末期腎不全医療の問題の検討を行う。腎友会との連携で、特に高齢透析患者について調査を行う。

腎移植認定医による腎移植に関する相談システムを広報して、積極的活用を図る。

県内脳死下臓器提供病院の院内コーディネーターと連携し、臓器移植の推進を図る。

また、腎不全予防に関する県民啓発のあり方を検討する。

（2）腹腔鏡下幽門輪温存胃切除術後の胃内食物停滞防止における六君子湯の効果に関する研究

腹腔鏡下幽門輪温存胃切除術と腹腔鏡下迷走神経、幽門輪温存胃切除式の違いが術後の患者QOLに及ぼす影響について比較検討後、六君子

湯の効果について研究を行う。

（3）非アルコール性脂肪性肝疾患における血清M30の有用性

血清可溶性LDL受容体とNAFLDの重症度との関連、NASHとSSの鑑別能を検討し、今まで検討してきたM-30と比較すると共に併用により診断能の向上がみられるか検討する。

（4）鳥取県におけるがん罹患・死亡の地域特性に関する疫学的研究

鳥取県がん登録資料や死亡統計を活用して、性別・年代別の罹患・死亡状況や市町村別、市郡別ならびに保健所管内別の状況について比較する。また、これらの解析を全国統計との比較や年次推移についても分析を行い、鳥取県におけるがん罹患・死亡の地域特性を明らかにして対がん活動の基礎資料とする。

（5）呼吸器外科領域におけるロボット手術の有用性に関する検討（新規）

鳥取大学医学部附属病院では平成22年8月に手術支援ロボットda Vinci Sを導入し、呼吸器外科においても平成23年11月末までに22例の手術に成功した。ロボット手術と胸腔鏡手術について、周術期因子や術後合併症などを比較検討し、さらに、ロボット手術が患者の心身健康状態及ぼす影響について、特に健康プロファイル型尺度であるSF-36を中心にしたアンケート解析を用いてQOLの評価を行う。

母子保健調査研究は、以下のとおりである。

1. タンデムマス法による新生児マス・スクリーニング

本スクリーニングによって見出される新しい代謝異常症の発生頻度・異常遺伝子の解析を行う。

2. 乳幼児健康診査マニュアルの改訂

改訂した乳幼児健康診査マニュアルの暫定案を乳幼児健診で試用して、改善点を確認する。

3. 原因不明の低出生体重児の病因の解明。

インスリン様成長因子系を基盤として低出生体重児の病因を明らかにする。

4. 頻度の高い染色体異常の合併症と予後

ダウン症に伴う心奇形とその予後を評価する。

調査研究内容について、以下の意見があった。

- (1) 鳥取県の疾病構造の地域特性調査研究を目的に県の委託金が充てられている。よって、鳥取県の地域特性に特化した研究内容として頂くようお願いすることとなった。

特に、「腹腔鏡下幽門輪温存胃切除術後の胃内食物停滞防止における六君子湯の効果に関する研究」、「非アルコール性脂肪性肝疾患における血清M30の有用性」については、平成24年度事業計画に鳥取県の地域特性に留意した内容として頂くようお願いすることとなった。

- (2) また、母子保健調査研究については、遺伝子の先天性奇形の調査を中心に長年行っておら

れ、全国で行っているところは少なく、鳥取県の研究は貴重な資料である。

母子保健調査研究は鳥取県の疾病構造の地域特性調査研究の一つとして位置付けられているので、やはり、鳥取県の地域特性に特化した研究内容として頂くようお願いすることとなった。

4. その他

研究成果について、昨年度の本委員会の意向を受けて、平成23年6月5日、鳥取県西部医師会館において開催された「鳥取県医師会春季医学会」において、鳥取大学医学部の井藤久雄先生と中村廣繁先生が研究成果を発表された。

平成24年度開催される「鳥取県医師会医学会」において、鳥取大学医学部の池口正英先生、村脇義和先生に発表して頂くようお願いすることとなった。